

## 平成28年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における塩草立葉小学校の結果分析と今後の取組みについて

大阪市立塩草立葉小学校長 竹内 幸延

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成28年4月から7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくために、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

### 1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校5年生、特別支援学校小学部5年生の原則全児童。
- ・塩草立葉小学校では、5年生 40名（男子20名、女子20名）。

### 3. 調査内容（児童生徒に対する調査）

ア、実技に関する調査（以下、「実技調査」。測定方法等は新体力テストと同様）  
小学校調査では、以下の種目を実施する。

[8種目]

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ、質問紙調査

運動習慣、生活習慣等の質問紙調査（以下、「児童・生徒質問紙調査」）を実施する。

### 4. 調査結果

次ページ以下をご覧ください。

# 平成28年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」検証シート

大阪市立塩草立葉小学校

児童数

40(男子20、女子20)

## 平均値

種目別平均(黄色は全国・大阪市平均を上回った種目。水色は大阪市平均を上回った種目)

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.50	17.55	26.55	37.10	42.90	9.72	157.15	19.50	47.21
大阪市	16.39	19.24	32.42	39.47	48.99	9.37	147.87	22.59	52.61
全国	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	151.39	22.42	53.92
女子	14.60	17.90	31.20	39.50	44.80	9.62	158.15	14.20	54.75
大阪市	16.20	18.22	36.84	37.74	39.18	9.62	142.12	13.94	54.30
全国	16.13	18.60	37.21	40.06	41.29	9.61	145.31	13.88	55.54

## 結果の概要

全種目の体力合計点は、大阪市の平均と比べると、男子は5.4ポイント下回り、女子は0.45ポイント上回っている。全国平均と比べると、男子は6.71ポイント、女子は0.79ポイント下回っている。種目別平均では、男子は「立ち幅とび」(瞬発力)、女子は「20mシャトルラン」(全身持久力)と「立ち幅とび」(瞬発力)、「ソフトボール投げ」(投力)の3種目が全国平均および大阪市平均をともに上回っている。また、女子は反復横跳び(敏捷性)が大阪市平均を上回っている。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校の子どもたちは、体育の学習や運動を好み、休み時間は運動場で楽しく遊んでいる。そこで、私たち教職員は、子どもたちの体力づくりを推進するために遊ぶ機会の確保が大切と考え、全校的に放課後遊びの時間を増やしたり、集団での外遊びに親ませたりしている。また、体育の学習での運動量を十分に確保したり、なわとびカードやマラソンカードを活用して体力づくりを推進したりしてきた。このように、体育科学習とともに、体育的行事や体力づくりの強調週間などを通して、児童の体力向上に向けて計画的に取り組んでいる。

今回の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、特に瞬発力を計測する立ち幅跳びは、男女とも大阪市と全国の平均を大きく上回った。特に、女子は8種目のうち半数の4種目で大阪市平均を上回っており、体力合計点でも上回っている。

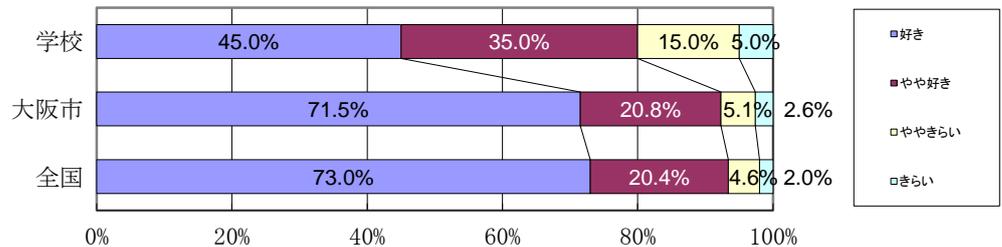
これらの結果が子どもたちの自信になり、さらに運動に親しむ意欲となるよう、励ましていきたい。学力と同様、体力づくりも、学校だけで成し遂げられるものではない。今後とも、家庭および地域と連携して児童が運動に親しむ機会を増やしていきたい。

# 運動やスポーツについて（男・女）

質問番号	質問事項
------	------

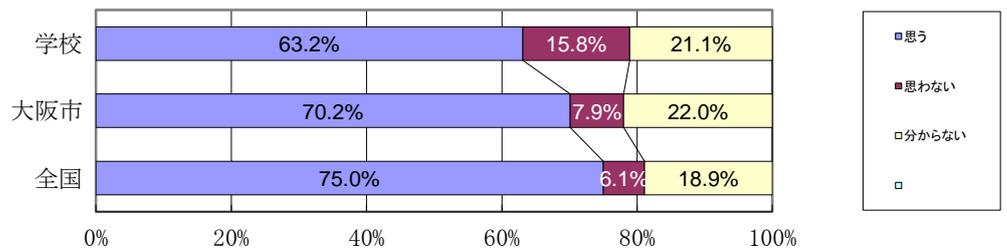
**男子**

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか



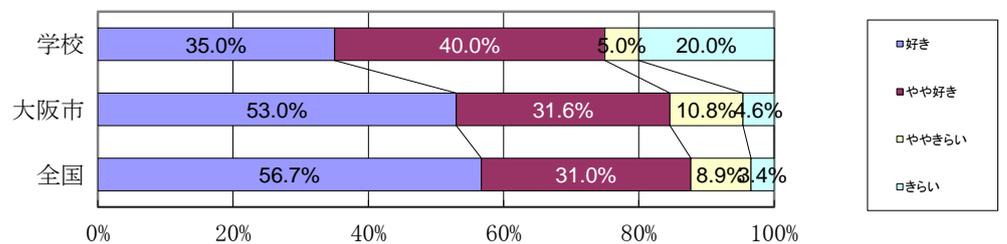
**男子**

中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



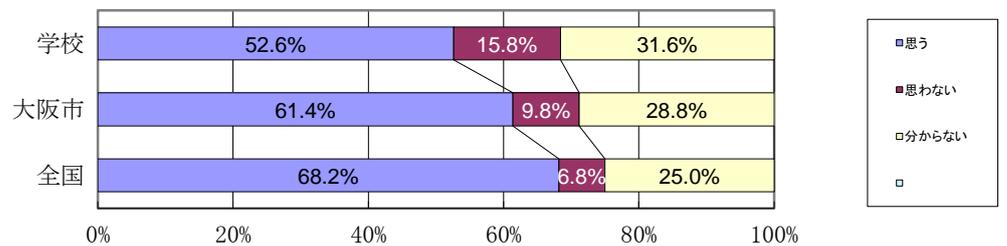
**女子**

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか



**女子**

中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



**成果と課題**

「運動やスポーツをすることは好き（やや好き）」の割合は、男子では全体の80%、女子では75%で、多くは肯定的な回答である。ただ、「ややきらい（きらい）」の回答は、男女とも20～25%あり、運動が好きではない児童への支援が必要である。また、「中学校に進んだら授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う」の割合は、男子では8割、女子では7割近くにのぼっている。

**今後の取組**

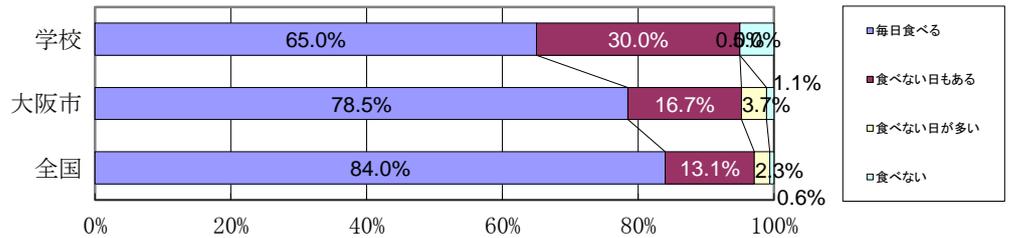
今後も、「体力づくりアクションプラン」にしたがって、教育活動のあらゆる機会を通して、運動に親しむ機会を増やしていく。また、体育学習における運動量を増やすとともに、休み時間や放課後などに運動や遊びに親しませる。さらに、下校後も屋外の遊びや運動、スポーツ活動ができるよう、家庭や地域に協力を呼びかけていく。

# ふだんの生活について（男・女）

質問番号	質問事項
------	------

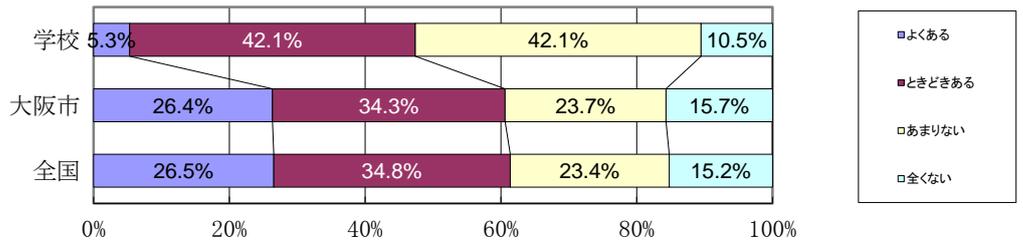
## 男子

朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)



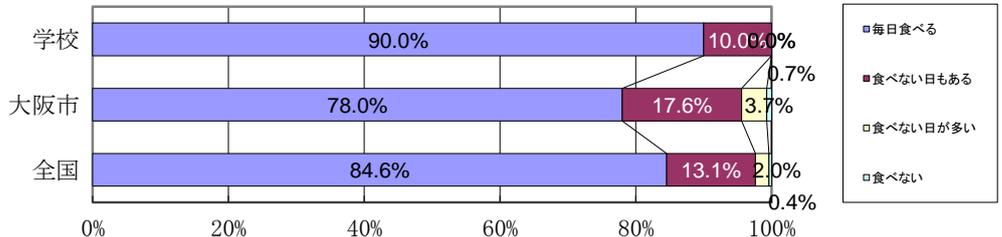
## 男子

家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめられますか



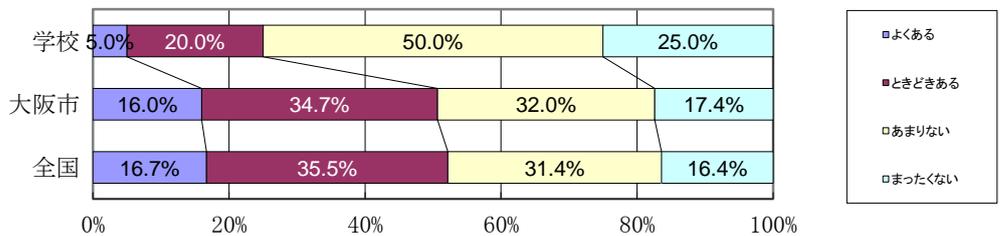
## 女子

朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)



## 女子

家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめられますか



## 成果と課題

朝食を毎日食べる割合は、男子が65%、女子は90%である。男子の喫食率は、大阪市平均を下回り、女子は大阪市・全国平均を上回っている。「家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめられる」割合は、男女とも大阪市・全国平均を下回っている。子どもたちの健康づくり、体力づくりのため、家庭の協力が不可欠である。

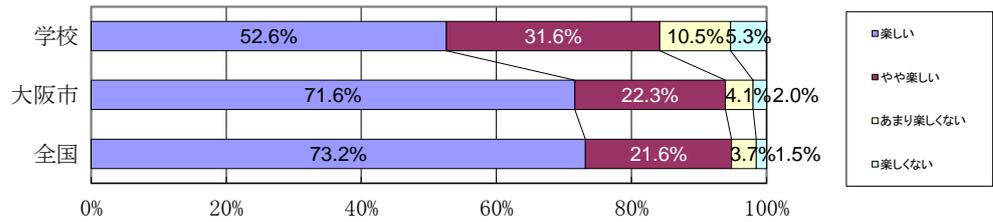
## 今後の取組

「地域や家庭で子どもと一緒に運動やスポーツに関わること」「朝食をとり、一日の元気なスタートをきり、生活のリズムを作ること」の2点について、今後とも引き続き地域・家庭と連携していきたい。

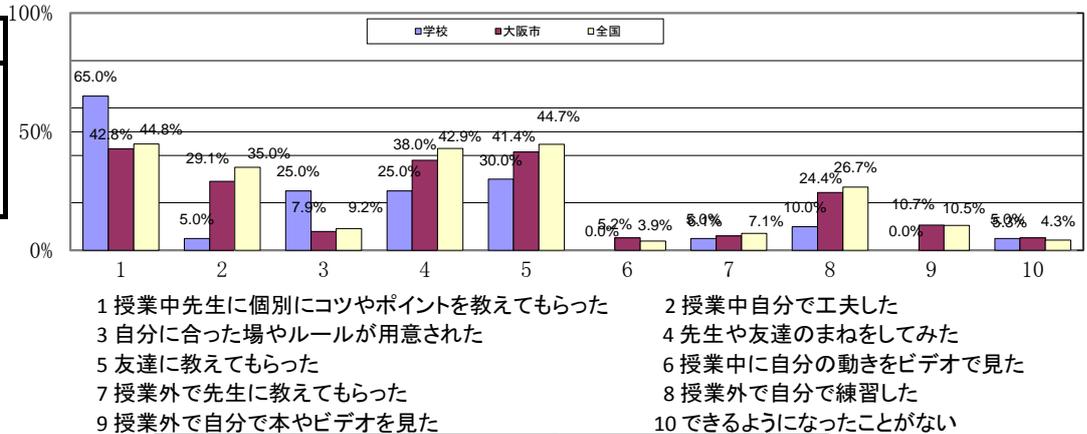
# 体育の授業について (男・女)

質問番号 質問事項

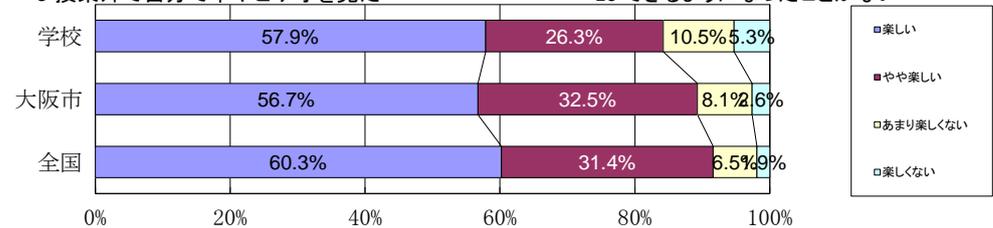
**男子**  
体育の授業は楽しいですか



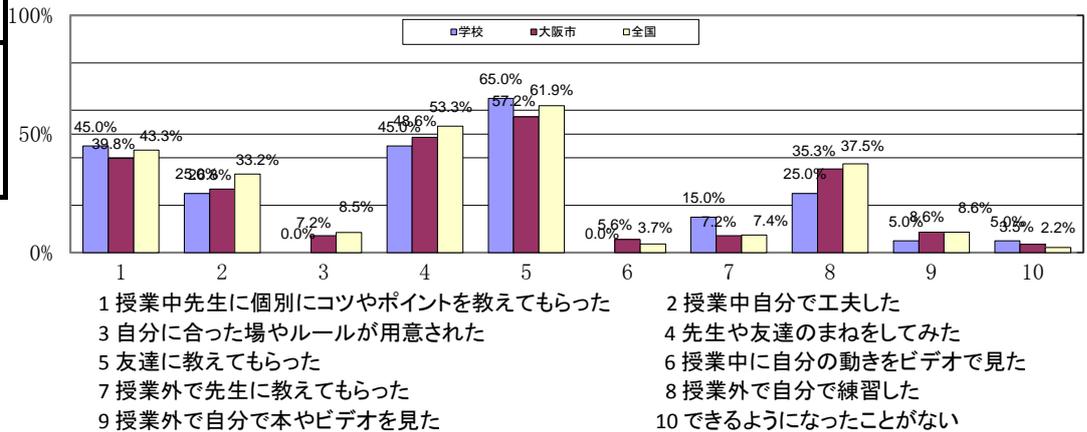
**男子**  
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



**女子**  
体育の授業は楽しいですか



**女子**  
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



**成果と課題**  
「体育の授業は楽しい(やや楽しい)」と回答する割合は、男女ともに84.2%である。体育科学習がおおむね肯定的に受けとめられており、特に女子では「楽しい」と回答する割合は、大阪市平均を上回っている。ただ、「(あまり)楽しくない」という回答も、16パーセント(約6名)あり、運動を好きになるような工夫が必要である。また、「これまでの体育の授業で『できなかったことができるようになった』きっかけ、理由」は、男子は「先生に教えてもらった」、女子は「友達に教えてもらった」が多く、個別指導や児童同士の学び合いが大切である。

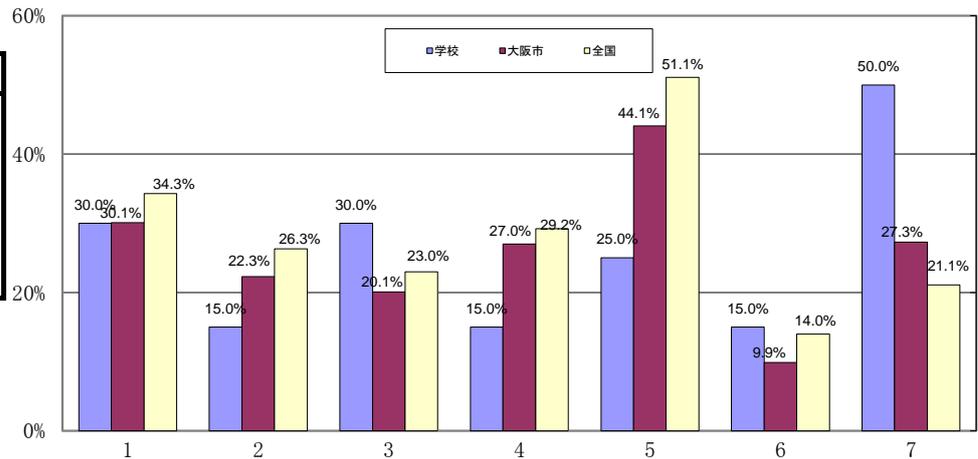
**今後の取組**  
男女とも、多くの児童が体育科の学習を好み、楽しいと感じていることから、授業中に十分な運動量を確保して、体力の向上を図っていく。また、教師による個別指導とともに、友達同士の教え合いや励まし合いがより大きな効果をもたらすことから、これらの手立てを体育の授業に位置付けていく。

## その他（男・女）

質問番号 質問事項

### 男子

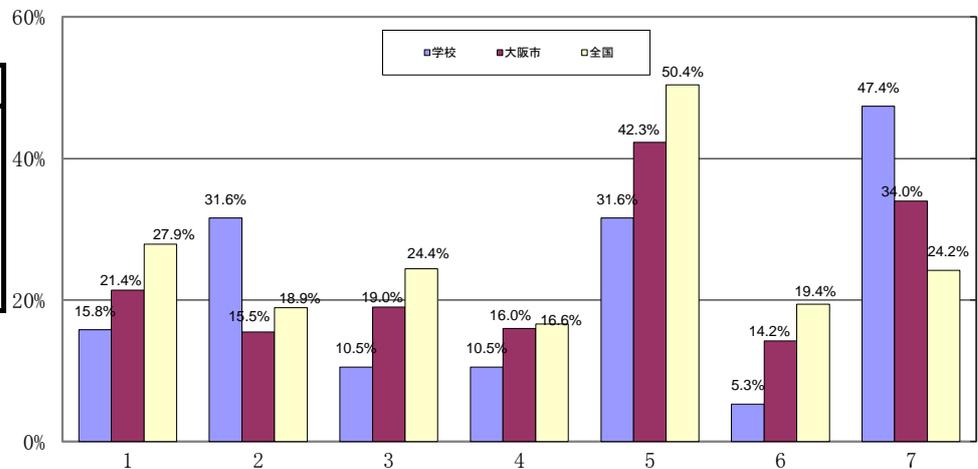
オリンピック・パラリンピックへの気持ち



- 1 関心が高まる      2 自分も行ってみたい      3 内容・歴史を知りたい  
 4 自分も出場したい      5 試合を見に行きたい      6 ボランティアをしてみたい  
 7 わからない

### 女子

オリンピック・パラリンピックへの気持ち



- 1 関心が高まる      2 自分も行ってみたい      3 内容・歴史を知りたい  
 4 自分も出場したい      5 試合を見に行きたい      6 ボランティアをしてみたい  
 7 わからない

### 成果と課題

オリンピック・パラリンピックについては、男女とも「わからない」が最も多く、現時点ではまだ自分のこととして実感できていないようである。男子では、「関心が高まる」「内容・歴史を知りたい」の割合がともに高く、女子では、「自分も行ってみたい」「試合を見に行きたい」の割合が高い。東京でのオリンピック・パラリンピック開催を契機に、運動やスポーツへの関心、意欲を高めていきたい。

### 今後の取組

男子では、「ボランティアをしてみたい」の割合が大阪市・全国平均を上回っている。女子では、「自分も行ってみたい」の割合が特に高く、男女とも積極的に参画しようとする意識が高くなっている。今後、東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて、運動やスポーツに取り組む機会をさらに増やしていきたい。